

JSS北海道 第17回地方会のお知らせ

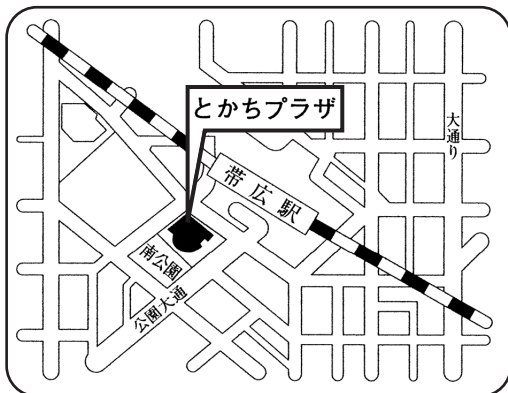
主催 JSS北海道地方会・一般社団法人 日本超音波検査学会
 実行委員長 福西 雅俊 (帯広協会病院)

JSS北海道 第17回地方会を下記のとおり開催いたします。

今回は「超音波検査はプローブをあてる前から始まっている ～理学・臨床所見から超音波検査を考える～」をテーマに講義を行います。超音波検査を行う上で重要な分野ですが、教科書には詳しく記載されているものが少なく検査時に戸惑うことも多いと思われます。是非、この機会に知識を習得し、日常の業務に生かしていただきたいと思ひます。多数の皆様にご参加いただきますようにご案内申し上げます。

記

- テーマ：『超音波検査はプローブをあてる前から始まっている ～理学・臨床所見から超音波検査を考える～』
- 日時：2011年7月9日(土) 14時00分～18時15分 (受付開始13時00分～)
- 会場：帯広とかちプラザ レインボーホール 2F
- 参加費：正会員・事前登録：1,000円・当日受付：1,500円、非会員(事前登録なし)：3,000円
- 事前登録：受付期間(WEBのみ)：2011年5月26日～6月16日・定員：300名
- ご注意：*変更など最新情報や申込状況はホームページ (<http://www.jss.org/>) でご確認ください。
 *事前登録は会員の方のみご利用可能で、非会員の方は利用いただけません。入会手続中の方も会員とは認められませんので、入会のお手続はお早目(1か月程度)にお願いします。
 *事前登録で定員に達した場合、未登録の方の当日参加はお受けできません。
 *空席がある場合のみ当日参加を受け付けますが、受付開始は事前登録の方を優先します。
 *当日は事前登録の有無に関わらず会員証をご持参ください。
 *会場内のビデオおよびカメラでの撮影は禁止といたします。
 *本会は日本超音波医学会認定の超音波検査士資格更新5単位が取得できます。



帯広とかちプラザ レインボーホール 2F

北海道帯広市西4条南13-1
 (帯広駅 南側)

□ JR 帯広駅南側出口より徒歩3分

問い合わせ先：〒080-0805 北海道帯広市東5南9-2 帯広協会病院検査科 田村 悦哉
 TEL: 0155-22-6600 E-mail: tamura@mail.jss.org (できるだけメールでお願いいたします)

JSS北海道 第17回地方会 プログラム

7月9日(土)

13:00~13:50	受 付
13:50~14:00	開会挨拶・オリエンテーション
14:00~14:45	<p>第I部 一般演題 司会：石川 嗣峰（手稲溪仁会病院臨床検査部） 上田 章裕（帯広協立病院放射線科）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「左室・右房交通症の1例：肺高血圧症を伴う三尖弁逆流との鑑別について」 西野 久雄（北海道大学病院 検査・輸血部） 2) 「血栓溶解療法にて消失しえた中心静脈カテーテル血栓症の1例（文献的考察もふまえて）」 茨木 康彦（森山病院 検査部） 3) 「腹部超音波検査にて長期経過観察している Osler 病の一症例」 大村 雅子（帯広協会病院 臨床検査科） 4) 「後腹膜脂肪肉腫の一症例」 佐川 直美（太黒胃腸内科病院 臨床検査科）
14:45~15:45	<p>第II部 講演：『理学・臨床所見から心エコーのポイントを考える』 講師：種村 正（心臓血管研究所付属病院臨床検査部） 司会：福西 雅俊（帯広協会病院臨床検査科）</p> <p>日常臨床において主治医の診察により、その理学・臨床所見からさまざまな依頼目的の心エコー検査がオーダーされます。評価しなければいけないポイントや、鑑別すべき疾患を学び、検査時にどのように進めたらよいかを、わかりやすく解説していただきます。</p>
15:45~16:00	休 憩
16:00~17:00	<p>第III部 講演：『理学・臨床所見から腹部エコーのポイントを考える』 講 師：大村 卓味（札幌厚生病院第三消化器科） 司 会：田村 悦哉（帯広協会病院臨床検査科）</p> <p>日常臨床において主治医の診察により、その理学・臨床所見からさまざまな依頼目的の腹部エコー検査がオーダーされます。その中で今回は黄疸と腹痛について、考えなければいけない疾患やそのポイント、検査の進め方などについて、わかりやすく解説していただきます。</p>
17:00~17:15	休 憩
17:15~18:15	<p>第IV部 講演：『理学・臨床所見から血管エコーのポイントを考える』 講 師：寺澤 史明（製鉄記念室蘭病院臨床検査科） 司 会：岡田 豊治（北斗病院臨床検査科）</p> <p>近年、血管エコーの必要性は非常に高まっています。しかしながら下肢血管領域だけをとってもその臨床所見はさまざまです。血管エコーの依頼があった時、その臨床所見から何を疑い、どのように検査を進めるべきかを、わかりやすく解説していただきます。</p>